

関東幕注文

永禄年中、越後の上杉謙信が関東諸国を従えた時、関東の諸豪に命じて、おのおのその用いるところの家紋を録上させたもの。当時における関東諸豪族二百数十家の家紋を知ることができぬ。

関東幕注文 上州

白井衆(群馬県北群馬郡)
 (憲景)
 長尾孫四郎 九ともへにほひすそこ
 外山民部少輔 きぎやう
 大森兵庫助 三かしわ
 神保兵庫助 立二引りやう
 高山々城守 (行重) にほひかたくる
 小林出羽守 にほひかた黒
 小嶋弥四郎 立二ひきりやう
 三原田孫七郎 三のしろ
 上泉大炊助 かたは三千鳥

惣社衆(前橋市)

安中 わつふの丸すそこ
 (信尚)
 小幡三河守 団の内六竹
 多比良 二ひきりやうすそこ
 大類弥六郎 うち八の内切竹にほつわつ
 萩原 丸之内の上文字
 (馬)
 高庭 二ひきりやうすそこ
 被官
 高津 爪乃もんすそこ
 瀬下 三ひきりやう
 小串 二引りやう
 神谷 いほりの内の十方
 多胡 二ひきりやう
 諏方 かちのは
 (時)
 荒符 藤の丸に根篠
 苅部 うりのもた
 反町 うちわの内きり竹にほつわふ
 栃淵 うりのもた
 (景総 長健)
 長尾能登守殿 九ともへにほひすそこ

箕輪衆(群馬県群馬郡)

長野 ひ扇
 新五郎 同文
 南与太郎 同紋
 小熊源六郎 同紋
 長野左衛門 同紋
 浜川左衛門尉 同文
 羽田藤太郎 同紋
 八木原与十郎 同紋
 須賀谷筑後守 同紋
 長塩左衛門四郎 丸之内の二引りやう、上今ト文字
 大戸中務少輔 六れんてん
 下田 ともへ
 漆原 丸のうちの一引りやう
 内山 す八ま三平賀トニ云文字
 高田小次郎 にほひ中黒
 和田八郎 ひ扇

厩橋衆(前橋市)

長野藤九郎 檜扇
 同彦七良 同紋
 (期)
 大胡 かたは三千鳥すそこ
 引田伊勢守 かぶ竹の丸の内につぶ梅五ツ
 沼田衆(沼田市)
 (顯泰)
 沼田 三かしろのひたりともへ
 小川 同もん 親類同
 岡谷右馬亮 同紋
 尻高左馬助 親類 同
 (刑)
 発智形部少輔 同紋
 沼田藤三郎 親類 同紋
 家風
 和田図書助 同
 発智小四郎 同 親類 同
 家風
 恩田孫五郎 同紋
 同与兵右衛尉 親類 同
 久屋内近助家風 ちかい鷹の羽
 金子監持丞家風 (景)
 松井大学助家風 ますかたの内ノ月
 阿佐美小三良同心 岩に松の紋
 竹二団之文

以上

岩下衆(群馬県吾妻郡)

齊藤越前守 六葉柏

山田 同六葉かし八

横瀬雅楽助 五のかゝりの丸之内の十方 (2)

新田殿御一家 二ひきりやう

西谷五郎殿 同

三原田弥三郎殿 おなしもん

泉中務太輔殿 左右之九ツ巴(大)立引りやう

金井 三反之左巴小文白の字

雅楽助親類 四のかゝりの丸之内の十方

常陸守 同もん

新右衛門尉 同もん

兵部少輔 同紋

新十郎 同

縣新次郎 すそこ三ツわちかい

同 小柴左衛門次良 すそこにますかたたくもる夜の月

同 同伊勢守 同もん

同 同宮内少輔 同

同 赤堀又次郎 いほりの内十方

同 山上藤九郎 五ノかゝりのいほりのうちの十方

同 同上平六 四のかゝりのいほり之内の十方

同 朝原式部少輔 同紋

同 善彦太郎 鏡のかく

同 同中務少輔 同

同 同和泉守 同もん

同 武井助四郎 同

同 同沼田姓 三反之右巴

同 新開弥三良 す八まにうりの文

同 小山姓 同

同 藪田新七良 同

同 市場弥十良 すはま

同 田部井弥十良 もつかうたてひきりやう

同 同陰崎守 同

同 家風 矢内弥十良 三段かゝりの丸之内の十方

同 同小山姓 二反之左巴

同 大沢彦四郎 丸之内二亀甲々々内十方

同 林佐渡守 丸之内四のかゝり

同 同蔵人 足利衆(足利市)

同 下野国 九ツともへにほひすそ

同 長尾但馬守 同もん

同 同心衆 同もん

同 小野寺 同もん

同 縣左衛門尉 わちかひ

同 岡部弥三良 丸之内の十方

同 安中将監 あふふの丸

同 家風 平沢左衛門三良 扇

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

小山衆(小山市)

同 小山殿 二かしらのもへ

同 同大膳 同もん

同 同右馬亮 同紋

同 家風 水野谷左衛門大夫 同もん

同 岩上大炊助 す八まともへ

同 栗宮 丸之内二ひきりやう

同 細井伊勢守 にほいかたくろ

同 一文字にかたは

同 妹尾平三郎 一文字にかたは

同 山河弥三郎 三反之右ともへ

同 栗官羽嗜守 丸之内の二引りやう

同 宇都宮 三反之左ともへ三ツ

同 笠間孫三郎 親類左ともへすそ

同 塩谷左衛門大夫 親類左ともへ五ツ

同 上三川次良 同左ともへに上文字

同 多宮虎寿丸 同左ともへに上文字

同 西方又三良 同左ともへに雲

同 田代中務太輔 ほつわう

同 芳賀伊賀守 家風 右三ツともへに名字

益子右衛門尉 同右ともへ
 神太夫 同ひあふき
 宇都宮入 寄衆
 皆川山城守 (俊宗力) 地黒之左ともへ
 同駿河守親類 地黒之左ともへ
 同又五郎 同紋
 同形部太輔 同
 膝付式部少輔家風 かし八の丸
 長沼玄番允 同 ともへ
 殖竹雅楽輔 同 梧のたう
 桐生衆(群馬県桐生市)
 桐生殿 かたくろ
 安威士部少輔 梶のは
 園田左馬助 す八ま
(昌綱)
 佐野殿 かたくろ
 家風
 津布久常陸守 す八ま
 山越大膳亮 きつこう
 新居 鷹のは
 松崎太和守 根篠
 阿久沢対馬守 丸之内三ツす八ま

幕之注文 古河衆(茨城県古河市)
(晴助)
 築田 水あおい三本たち
 同下野守 水あおい一本たち
 同右馬亮 (京) 同
 同平四郎 同
 同平九郎 同
 一宮河内守 一ひきりやう
 二階堂次良 たてすな
 相馬 四ツめゆひ
 築田家風
 横田藤四郎 扇之内之月七本松
 周西藤九郎 きつこうの内之舞
 鶴さん木
 石川彦六 瓜之文三文字
 仙波左京亮 ますみの月に十文字
 箕勺大炊助 うりのもん
 綱嶋小三良 丸之内之立相雲
 賀嶋四良右衛門尉 三ひきりやう
 幕之注文 武州之衆
 成田下総守 月三引りやう
親類
 同尾張守 三ひきりりやう

親類 同大蔵丞 三ひきりやう
親類
 同越前守 おなしもん
親類
 田中式部少輔 をなしもん
 同
 野沢隼人佐 おなしもん
 同
 別府治部少輔 をなしく
 同
 別府中務少輔 おなしく
同心
 須賀土佐守 二かしろのともへ
同心
 鳩井能登守 かたくろ
 同
 本庄左衛門佐 団之うち三本之字
 家風
 山田豊後守 かたは三
 同
 田山近江守 かたはみ
 同
 山田河内守 丸之内之一ひきりやう
 手嶋美作守 鷹の羽二梅花
 小田助三郎 す八ま
 家風
 富沢四郎右衛門尉 丸之内之一ひきりやう
 馬寄
 羽生之衆
 廣田式部大輔 梅之紋
(直繁)
 河田善右衛門大夫 かたは三
(忠朝)
 渋江平六郎 くわのもん
 岩崎源三郎 二本鷹之羽

藤田幕 ふたのかゝりの五つき地くろ
 飯塚 五つき
 桜沢 五つき
 猪俣 五のかかりの五つき
 岡部長門守 丸之内十方
 深谷御幕 竹に雀
 秋元掃部助 くわの文
 井草源左衛門尉 月一しやうひ
 市田御幕 竹に雀
 岩付衆(埼玉県岩槻市)
(太)
(資正)
 大田美濃守 かぶらや左前
 大石石見守 一てつのは三葉
 小宮山禅正左衛門 七ツ月
 浅羽下総守 団之文
 本間小五郎 十六目ゆひ
 春日弥八郎 りんたう
 同撰津守 同
 埴谷図書助 一用
 小宮右衛門尉 鷹之羽
 広沢尾張守 いしたゝみに三ともへ

浜野修理亮家風 おもたか鶴

河内越前守家風 桐とう

賀藤兵部少輔 九字

川口将監 釘ぬき

(勝沼衆 埼玉県追青梅市)

三田弾正 (綱秀) ひとりともへ三ツ三かし八ツ くみあせ也

毛呂 かりかねのもん

岡部 団之内の十方

平山 鷹乃羽

諸岡 三葉かし八

賀沼修理亮 かた黒の月

常陸之國

六戸中務太輔 す八ま

彼家中 友部大和守きつこう之内しまつか八ひし

小田中務少輔 すわま

筑波太夫 おなしく

(刑) 柿岡形部太輔 同

岡見山城守 同

信太兵部太輔 きつこう之内ノ根菊

同掃部助 おなしもん

大土部紀四郎 同

福田左京亮 同

菅谷左衛門尉 きつこう之内之きちかう

同次良右衛門尉 同

(刑) 平塚形部太輔 ひとりともえ

屋代彦四郎 丸之内の上文字

真壁安芸守 八りひし

彼家中 白井修理亮 八りひし

坂本信濃守 ともへ二かしら

高久将監 一文字ひしたく三

多賀谷修理亮 一文字瓜之文 (つり)

彼家中 勝徳寺 左ともへ三かしら

行田宮内少輔 はしり龍

水谷弥十郎 ともへに二ひきりやう

(安) 阿房国 幕之注文

(義弘) 里見民部少輔殿 一引りやう

(時茂) 正木大膳亮 三ひきりやうすそこ

同十郎 おなしもん

同大炊助 をなしもん

同左京亮 同文

同兵部少輔 同

三野弥次郎 水色すそこ

正木大膳亮家風

吉田右馬助 ひとりともへ

河野四良左衛門尉 藤之丸

上総衆

酒井左衛門尉 鏡のかくともへ

上室治部少輔 ひしもつかうにほひすそこ

(城) 下総衆 井けた五よう

高成下野守

以上

文書によつて本注文の成立は永禄四年正月から三月までの間に限定できる。なお池上裕子『関東幕注文』をめぐつて(『新潟市史研究』11号参照)

(2)横瀬雅楽助以下は新田衆であるのでこの間に脱落があると思われる

(新潟県史資料編より)

(1)永禄四年冬の政虎の第二次関東出兵時以降、成田、佐野の離叛ついで勝沼衆の三田、岩下衆斎藤の没落等があり、本注文の諸氏がそろつていないので、本注文は永禄三年秋から翌四年にかけての第一次関東出兵時の作成となる。このとき景虎は関東諸氏に参陣を催促したが、永禄三年十月二十九日現在、それに応じたのは上野 武蔵の衆に限られ、常陸 下野両国諸氏の参陣はなかつた(三股文書)。また上杉輝虎公記所収 同年十二月二十四日付景虎書状から、正木大膳亮の参陣は永禄三年中には不可能とみられる。他方、本注文に名のみえない佐竹那須は四年三月中には参陣している。蕉木文書、那須